

# モデルカリキュラムにおける領域「言葉」の分析 —絵本に関する記述に焦点をあてて—

金丸 智美

## An Analysis of “language” in model curriculum: focus on the description of picture books.

by

Satomi KANAMARU

### I. はじめに

幼稚園における教育は、幼稚園生活の全体を見通して作成された教育課程をもとに各種指導計画を立て実践することと、幼稚園教育要領で規定されている。指導計画とは、それぞれの発達の時期の「ねらい」や「内容」を、どのように具現化していくのかを考えるために作成されるものであり、最も長期的な見通しをもって作成されるものが年間指導計画である。子どもの発達に即した具体的な「ねらい」「内容」を、系統的、発展的に記述した年間指導計画に基づいて教育を行うことは、適切な幼稚園教育を行う上で大変重要であると考えられる。同様に、保育所（園）においても保育課程を各保育所（園）で編成し、これを具体化した指導計画を作成することが求められている。

しかし、過去の研究により、保育現場で作成された指導計画には多くの課題があることが明らかにされている。田中他（1996）は、国立大学附属幼稚園の年間指導計画を分析し、領域によって「内容」の出現頻度に偏りがあることを指摘した。特に記述数が少なかったものは領域「言葉」であり、領域「人間関係」の記述数の半分にも満たなかった。

また、田中他（1997）は、国立大学附属幼稚園の年間指導計画を分析し、「発達の姿」に関する記述は、領域「言葉」や領域「表現」に関してどの園も少なく、3年間を通して記載0という園がそれぞれ2園ずつ存在したことを明らかにした。また、領域「言葉」と領域「表現」において、発達の実態が記載されないまま、指導内容だけが記載されるというものが少なくなかったことも明らかにした。

保育園で作成された年間指導計画においても、同様の課題が指摘されている。尾花（2007）は保育園における3歳以上児クラスの年間指導計画を分析し、各園の「ねらい」は領域間

---

受理日：平成23年11月24日

純真短期大学こども学科 特別任用助教

の偏りが大きいことを明らかにした。中でも領域「言葉」に関する記述は最も少なく、半数以上の園では記述が0であった。また、各園の「ねらい」を合算した場合、領域「言葉」の記述は、領域「人間関係」の半数にも満たなかったことを明らかにした。

このように、保育現場で作成された年間指導計画は多くの課題が指摘されているが、その原因はどこにあるのであろうか。筆者はその要因の一つとして、保育雑誌に掲載されるモデルカリキュラムが挙げられるのではないかと考えている。

保育現場で使用される年間指導計画は、園や地域の特性を生かし、職員全員で作成することを、幼稚園教育要領及び保育所保育指針は求めている。しかし、7割の保育者は各種指導計画作成の際、保育雑誌のモデルカリキュラムをよく参考にしているということが、奥山他（2006）によって明らかにされている。

保育現場の保育者に多大な影響を与えていると考えられる保育雑誌のモデルカリキュラムであるが、このモデルカリキュラムも多くの課題が指摘されている。田中他（2009）は保育雑誌に掲載されるモデルカリキュラムを分析し、11点の問題点を指摘している。その内の1つに、「ねらい」や「内容」の偏りの大きさを挙げている。分析対象としたモデルカリキュラムの「ねらい」と「内容」は領域「言葉」の記述が最も少なく、「ねらい」は全体の1.7%、「内容」は全体の13.1%でしかなかったことを明らかにした。これは保育現場で作成されるカリキュラムの特徴と一致している。このことより、保育雑誌に掲載されるモデルカリキュラムが保育現場で作成されるカリキュラムに多大な影響を与えていることは明らかである。

## II. 研究の目的

先にも述べたとおり、保育現場で作成されているカリキュラムやモデルカリキュラムを分析した先行研究では、多くの問題点及び課題が指摘されている。また、全ての先行研究において、領域「言葉」は特に問題点が多いという結果が示されている。

その一方で、領域「言葉」は平成20年の幼稚園教育要領改訂の際、「言語力の育成・活用の重視」という面から、幼児期から高等学校までの一貫した教育課程を視野に入れ改訂（定）されたという経緯があり、現在の教育において重視されているものの一つであると言える。

幼児期における言語力育成のための方策の一つに「絵本」が挙げられる。絵本読みは、多くの園で毎日実践されており、入園時から卒園時まで途切れることなく行われる活動の一つであると言える。そのため、年間指導計画にも在園期間全体を通して絵本に関する「ねらい」「内容」の記載が求められる。

本研究では、過去の研究で多くの問題点が指摘された領域「言葉」に焦点を絞り、分析を行う。また、在園期間を通して記述内容がどのように変化をするのか分析するために、領域「言葉」の中でも特に「絵本」を取り上げ、モデルカリキュラムの現状と課題を探ることを目的とする。

### Ⅲ. 分析の方法

#### ①分析の対象

市販されている保育雑誌A,B,C,D,Eの2011年4月号に特別付録として掲載された3,4,5歳児の年間指導計画(モデルカリキュラム)を対象とした。対象の詳細については以下の通りである。

保育雑誌 A (以下 A) : 幼稚園 3 歳児,4 歳児,5 歳児、保育園 3 歳児,4 歳児,5 歳児

保育雑誌 B (以下 B) : 幼稚園 3 歳児,4 歳児,5 歳児、保育園 3 歳児,4 歳児,5 歳児

保育雑誌 C (以下 C) : 幼稚園 3 歳児,4 歳児,5 歳児、保育園 3 歳児,4 歳児,5 歳児

保育雑誌 D (以下 D) : 幼保共通 3 歳児,4 歳児,5 歳児

保育雑誌 E (以下 E) : 保育園 3 歳児,4 歳児,5 歳児

#### ②分析の方法

絵本に関する記述を分析する。今回の分析における絵本に関する記述とは、「絵本」、「物語」、「紙芝居」、「童話」、「お話」、「図鑑」という言葉が表記されているものを指すものとする。

##### a.数量分析

モデルカリキュラムの中で、絵本に関する記述の数を、年齢別、期別、項目別に算出する。

##### b.内容分析

次のような観点から、モデルカリキュラムに記述された「予想される子どもの姿」「ねらい」「内容」を分析する。

- ・「予想される子どもの姿」「ねらい」「内容」がそれぞれ対応しているか。
- ・系統的、発展的に記述されているか。
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針が求めている「ねらい」「内容」と一致しているか。

### Ⅳ. 結果と考察

保育雑誌に掲載された5誌24のモデルカリキュラムを分析した結果は、表1～表9に示すとおりである。表1は、分析対象とした全24のモデルカリキュラムを年齢毎にまとめ、各年齢区分の「年間目標」「子どもの姿」「ねらい」「内容」項目に、絵本に関する記述が何ヵ所あったのかを分析したものである。

表2～表9は、同一雑誌に掲載された単年度のカリキュラムを幼稚園、保育園毎に年齢順に3年間分繋げて表示し、各項目で絵本に関する記述が何ヵ所あったのかをまとめたものである。記述があったものはその数を、記述が見られなかったものには×を記している。なお、絵本に関する記述があるものの、領域に分類した場合に領域「言葉」以外(領域「環境」など)に当てはまると判断したものは、括弧書きで該当数を記した。

表1. 絵本に関する記述合計  
(24のモデルカリキュラム合計)

	3歳児	4歳児	5歳児
年間目標	0	0	0
子どもの姿	0	0	2(1)
ねらい	0	0	0
内容	8	12	8

表2. 保育雑誌Aの幼稚園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児				5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×				×			
子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	×	×	×	×	1	×	×	×	×	×	×	×
環境構成と援助	1(1)	×	×	×	×	(1)	×	×	(1)	×	×	×

表3. 保育雑誌Aの保育園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児				5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×				×			
子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	×	×	×	1	×	×	×	×	×	×	×	×
子どもの活動	1	×	×	×	×	(1)	1	×	×	1	×	×
環境構成と援助	×	×	×	×	×	(1)	×	×	×	×	×	×

表4. 保育雑誌Bの幼稚園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児					5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	V期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×					×			
子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	1	×	×	×	×	×	×	1	×	×	×	1	×
援助と環境構成	×	×	×	×	×	×	×	×	×	(1)	(1)	×	×

表5. 保育雑誌Bの保育園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児				5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×				×			
子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	×	×	1	×	1	1	×	1	×	1	×	×
援助と環境構成	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

表6. 保育雑誌Cの幼稚園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児				5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×				×			
予想される子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
環境構成と援助	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

表7. 保育雑誌Cの保育園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児				5歳児			
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期
年間目標	×				×				×			
予想される子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	(1)	1	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
内容	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	×
環境構成と援助	1	×	1	×	×	(1)	×	×	×	×	×	×

表8. 保育雑誌Dの年間指導計画における絵本に関する記述（幼稚園・保育園共通）

年齢 期	3歳児				4歳児					5歳児				
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	V期	I期	II期	III期	IV期	V期
年間目標	×				×					×				
子どもの姿と育てたい側面	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
指導内容の視点	1	×	1	1	1	1	1	1	×	1	1	×	1	×
環境構成と援助	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

表9. 保育雑誌Eの保育園年間指導計画における絵本に関する記述

年齢 期	3歳児				4歳児					5歳児				
	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	V期	I期	II期	III期	IV期	V期
年間目標	×				×					×				
子どもの姿	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1
ねらい	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
保育の内容	1	×	×	×	1	1	1	×	×	1	1	×	×	×
環境構成					×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
援助と配慮					×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

①数量分析

全てのモデルカリキュラムにおいて、「年間目標」と「ねらい」の欄に絵本に関する記述は見られなかった。また、5歳児における「子どもの姿」には、領域「言葉」に分類される絵本に関する記述は2箇所、領域「言葉」以外（領域「環境」）での記述が1箇所あった（表1）。

本来ならば「子どもの姿」を受けて「ねらい」が設定され、「ねらい」を達成するために「内容」が設定されるべきである。また、「年間目標」と「ねらい」には関連性が求められる。しかし、モデルカリキュラムにおいては、「年間目標」や「子どもの姿」、「ねらい」の記述が無いにも関わらず、「内容」だけが突然出現し、記述されていることがわかる。

②内容分析

1) 「予想される姿」「ねらい」「内容」がそれぞれ対応しているか

既に数量分析で指摘した通り、各項目の関連性は見られなかった。唯一、雑誌Cの保育園モデルカリキュラムにおいて、「予想される子どもの姿」と「内容」が5歳児III期の同時期に記されており、記述内容にも一致が見られた。記述内容は以下の通りであった。

予想される子どもの姿：

生活経験が広がり、絵本やお話の世界に親しみをもちながら、イメージを膨らませて表現する楽しさを味わっている。

内容：

イメージが広がるように、いろいろな絵本や物語を読み聞かせ、表現あそびが楽しめるようにする。

記述内容の一致は見られるものの、本来ならば、「予想される子どもの姿」と「内容」の間に、「ねらい」の記述が求められるところである。

また、この「内容」の記述には別の問題点も孕んでいる。そもそも「内容」は幼児を主体として記述するものであり、上記のように保育者を1人称とした記述方法は間違いである。

保育所保育指針における「内容」とは、「ねらい」を達成するために子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものであるため、保育士の援助事項が入っていること自体は問題ない。しかし、保育所保育指針の「内容」を見てみると、子どもを1人称として記述していることがわかる。よって、カリキュラムの「内容」の記述は、子どもを1人称とした記述が適当であると考えられる。

## 2) 系統的、発展的に記述されているか

幼稚園教育要領に示された「ねらい」は、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連を持ちながら次第に達成に向かうものである。これは保育所（園）における教育でも同様である。つまり、「ねらい」「内容」は長期的な視点を持って設定しなければならないのである。よって、「ねらい」や「内容」は継続的に、徐々に発展性を持って記載されることが望まれる。しかし、表2～表9を見ても分かる通り、「ねらい」が記されているモデルカリキュラムは1つもなかった。また、「内容」が連続的、継続的に書かれたものもなかった。中には、3年間を通じて1度も絵本に関する記述が「内容」に登場しないモデルカリキュラムもあった（表6）。

次に「内容」に関する記述数が他のモデルカリキュラムに比べて多かった、保育雑誌D（表8）と、保育雑誌E（表9）を取り上げ、記述内容を分析する。

### ○保育雑誌Dの分析

保育雑誌Dに掲載されたモデルカリキュラムの「指導内容の視点」欄に記載された絵本に関する記述をまとめた（表10）。各年齢の「指導内容の視点」を見てみると、I期から時期が進むにつれて、内容に発展性があることが分かる。しかし、各年齢間には繋がりを確認することができない。本来ならば3歳児I期から5歳児IV期に向け、段階的に「指導内容の視点」のレベルは発展していくはずである。しかし、保育雑誌Dのモデルカリキュラムを見ると、3歳児IV期よりも4歳児I期の方が求めるレベルが明らかに低くなっていることが分かる。同様に、4歳児IV期よりも5歳児I期の方が低いレベルに設定されている。

年度途中の記述にも同様のことが言える。4歳児III期と5歳児II期の「指導内容の視点」を比較すると、童話と物語という表現の違いはあるものの、同じ内容が記載されている。4歳児III期には「進んで」という言葉が文頭にあるので、5歳児II期よりも高度なことが求められていると捉えることも可能である。

### ○保育雑誌Eの分析

保育雑誌Eに掲載されたモデルカリキュラムの「指導内容の視点」欄に記載された絵本に関する記述をまとめた（表11）。保育雑誌Dに掲載されたモデルカリキュラムに比べて記述数が少なく、各年齢内での発展性を分析することは難しい。では、各年齢間での繋が

りや発展性はどうかであろうか。

3歳児I期の記載内容と4歳児I期の記載内容を見ると、両者にはあまり大きな違いが見られないことが分かる。1年という年月の前後で幼児の学びや発達が停滞し、違いが見られないとは考え難い。やはり、保育雑誌Eのモデルカリキュラムも、発展的なカリキュラムにはなっていなかった。

表10. 保育雑誌D モデルカリキュラム 指導内容の視点

3歳児	I期	みんなでいっしょに保育者の話や絵本などを聞いたり、見たりすることを楽しむ。
	III期	絵本や紙芝居などを何度も読んでもらったり見たりして、お気に入りのものができる。
	IV期	絵本や紙芝居などをみんなで楽しみ、好きな登場人物になりきって遊ぶ。
4歳児	I期	クラスの友達といっしょに絵本や童話を見たり、聞いたりして楽しむ。
	II期	絵本や童話などを興味をもって見たり、聞いたりする。
	III期	進んで絵本や童話に親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。
	IV期	絵本や童話、視聴覚教材などを喜んで見たり、使ったりして、いろいろな表現を楽しむ。
5歳児	I期	お話の展開に興味を持って聞き、保育者や友達と心を通わせる。
	II期	絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。
	IV期	絵本や物語などに親しみ、想像を豊かに膨らませたり表現したりする楽しさを味わう。

表11. 保育雑誌E モデルカリキュラム 保育の内容

3歳児	I期	保育士や友達と一緒に紙芝居や絵本を見たり、歌を歌ったりして楽しむ。
4歳児	I期	絵本や紙芝居などを見たり聞いたりして楽しむ。
	II期	絵本や童話・図鑑などに親しみ、見たり聞いたりして楽しむ。
	III期	物語やお話のイメージを広げ、いろいろな場面で友達と一緒にさまざまな表現をすることの楽しさを共感する。
5歳児	I期	絵本や童話、図鑑に親しみ、その面白さがわかり、想像して楽しむ。
	II期	絵本、童話、図鑑に親しみ、さまざまなことを知り、イメージを膨らませる。

3) 幼稚園教育要領、保育所保育指針が求めている「ねらい」「内容」と一致しているか  
 調査対象としたモデルカリキュラムはいずれも「ねらい」の記載がなかった。そのため、今回は幼稚園教育要領、保育所保育指針が求める「内容」とモデルカリキュラムの「内容」に整合性があるのかを分析する。

幼稚園教育要領の領域「言葉」に記載されている絵本に関する「内容」は次のとおりである。

領域「言葉」 2 内容

(9) 絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。

また、「3 内容の取扱い」には以下の事項に留意する必要があると書かれている。

(3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージ

をもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

保育所保育指針の領域「言葉」に記載されている絵本に関する「内容」は、幼稚園教育要領と同文である。保育所保育指針には内容の取扱いの記載はないが、保育所保育指針解説書には、次のような解説が書かれている。

絵本だけでなくお話や童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりする機会をつくりながら、子どものイメージの世界を広げていきます。そして、視覚に頼らず自分の心の中に自由にイメージを膨らませていくことができるよう、語りや読み聞かせを取り入れていくことも大切です。さらに、心の中に描いたイメージを言語化したり、身体表現など様々な表現に結び付けていく機会をつくっていくことが、想像する楽しさを膨らませていきます。

では、モデルカリキュラムは幼稚園教育要領や保育所保育指針が求める「内容」を十分に達成できる計画になっているのであろうか。各モデルカリキュラムで卒園時に最も近い時期に記載された絵本に関する「内容」を表にまとめた（表 12）。

表 12. 各モデルカリキュラムにおいて最後に記載された絵本に関する「内容」

雑誌名	幼保別	年齢	期	内容
A	幼稚園	4歳児	I 期	保育者や友達と一緒に手遊びをしたり、絵本や紙芝居を見たり、簡単なゲームをして楽しさを味わう
A	保育園	3歳児	IV 期	絵本に親しみ、イメージしたことを様々な表現する
B	幼稚園	5歳児	II 期	絵本や物語を見たり聞いたりして、イメージを豊かにする。
B	保育園	5歳児	II 期	絵本や紙芝居に親しみ、自分で読んでみようとする。
C	幼稚園			「内容」の記載なし
C	保育園	5歳児	III 期	イメージが広がるように、いろいろな絵本や物語を読み聞かせ、表現あそびが楽しめるようにする。
D	幼保共通	5歳児	IV 期	絵本や物語などに親しみ、想像を豊かに膨らませたり表現したりする楽しさを味わう。
E	保育園	5歳児	II 期	絵本、童話、図鑑に親しみ、さまざまなことを知り、イメージを膨らませる。

いくつかのモデルカリキュラムは、幼稚園教育要領や保育所保育指針が求めるレベルに到達しないまま、絵本に関する「内容」が終了していることが分かる。

例えば保育雑誌 A の幼稚園モデルカリキュラムは絵本や紙芝居を見るというレベルに終始し、想像する楽しさや豊かなイメージを持つという段階からは程遠いレベルであると言える。

また、保育雑誌 B の保育園モデルカリキュラムにおいては、自ら絵本を手にして楽しむというレベルまでは達成されるものの、やはり心の中に描いたイメージを言語化したり、身体表現に結び付けたりという、保育所保育指針が求めるレベルには到達していないことが分かる。



## V. 今後の課題

現場の保育者の多くは指導計画を作成する際、保育雑誌のモデルカリキュラムを参考にしているにも関わらず、モデルカリキュラムには多くの問題があることを明らかにした。幼稚園、保育所（園）の指導計画や保育の実践に多大な影響を与えるモデルカリキュラムであるからこそ、問題点を改善し、「本来あるべきカリキュラムの姿」に近づく努力が必要ではないだろうか。そのために、以下の4点を今後の課題として提示したい。

- ①「年間目標」「予想される子どもの姿」「ねらい」「内容」に一貫性を持たせる
- ②在園期間を通して一貫性のある、継続的、発展的なカリキュラムを作成する
- ③幼稚園教育要領、保育所保育指針との整合性を図る
- ④現実の子どもの姿と結び付いた具体的なカリキュラムを作成する

### ①「年間目標」「予想される子どもの姿」「ねらい」「内容」に一貫性を持たせる

本論文で分析したモデルカリキュラムは、いずれも「年間目標」「ねらい」の欄に絵本に関する記述が見られなかった。また、「ねらい」が無いにも関わらず「内容」が記される、「予想される子どもの姿」があるのに「ねらい」「内容」の記述が無いなど、各項目の一貫性が見られなかった。

5誌中3誌は、モデルカリキュラムの見方を説明するページがあり、この説明ページでは、それぞれの項目の意味や、他の項目との関係性などを解説している。しかし、掲載されたモデルカリキュラムを見ると、解説通りにはなっていなかった。これでは、「年間目標」を受け「ねらい」を設定する、「予想される子どもの姿」を受け「ねらい」を設定する、「ねらい」に対応して「内容」を設定するという、指導計画立案方法の基本までもがなござりにされてしまうのではないだろうか。説明ページに書かれている解説にも上手く対応するような、各項目に一貫性のあるモデルカリキュラム作成が望まれる。

### ②在園期間を通して一貫性のある、継続的、発展的なカリキュラムを作成する

今回の調査では、絵本に関する内容を継続的に記したモデルカリキュラムは存在しなかった。幼稚園教育要領や保育所保育指針が求める「ねらい」や「内容」は、在園期間を通して、経験の積み重ねにより達成されるものであるため、本来ならば年間指導計画にも継続的に「ねらい」や「内容」が登場しなければならない。現在のモデルカリキュラムのように、「ねらい」や「内容」が単発的に記載される方法では、長期的な視点を持って指導するということがカリキュラムからは伝わらないのではないだろうか。継続的な記載を行うことにより、段階的に成長していく幼児の姿が見えるカリキュラムになるであろう。

また、保育雑誌D、保育雑誌Eに掲載されたモデルカリキュラムを分析し、年齢内での発展性は見られるものの、年齢間の繋がりや発展性は見られないことを指摘した。このような状況に陥っている原因の一つとして、モデルカリキュラムの作成者の問題が考えられる。

今回分析対象とした保育雑誌5誌のいずれも、年齢ごとに異なるグループや異なる園でモデルカリキュラムを作成している。そのため、作成グループ内（同一年齢内）での発展性や整合性は見られるものの、他のグループが作成しているカリキュラム（異年齢）との

関連性や継続性、発展性には整合性が見られないのである。幼稚園モデルカリキュラムと保育園モデルカリキュラムを別々のグループが作成することはもちろんあり得るであろう。しかし、子どもの発達をもとに長期的な視点を持って作成するという年間指導計画の性質を考えると、在園期間を通して同一グループがモデルカリキュラムを作成する方が良いのではないだろうか。

### ③幼稚園教育要領、保育所保育指針との整合性を図る

今回分析したモデルカリキュラムのいくつかは、幼稚園教育要領や保育所保育指針が求める「内容」のレベルに到達しないまま、カリキュラムが終了していた。卒園時には幼稚園教育要領や保育所保育指針が求める「ねらい」や「内容」を達成しておく必要があるため、やはりカリキュラム終了時の姿と幼稚園教育要領及び保育所保育指針が求める姿は一致すべきであろう。

多くの保育者が幼稚園教育要領や保育所保育指針の理解や実践に困難を抱えていることが、金丸（2010）の調査で明らかになっている。幼稚園教育要領や保育所保育指針が求めている保育を分析し、具体的な保育実践例として分かりやすく保育者に提案するということは、保育雑誌に求められる役割の一つであると言える。幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づいた具体的な保育実践例を、カリキュラムとどのように結び付けるのが良いか現場の保育者に提案することも、モデルカリキュラムが担うべき大きな役割であろう。

多くの保育者に多大な影響を与えるモデルカリキュラムは、幼稚園教育要領や保育所保育指針が幼児にどのような姿を求めているのかをしっかりと理解し、作成する必要があると考える。

### ④現実の子どもの姿と結び付いた具体的なカリキュラムを作成する

年間指導計画は概要を記し、週案や日案等の短期の指導計画の段階で内容を具体的に書く方が良いという意見がある。しかし、各種指導案の基となる年間指導計画が具体的でなければ、長期的な見通しが立たなくなり、結果として一貫性のない保育実践になってしまう可能性が大きい。やはり可能な限り年間指導計画の段階で、具体的な「子どもの姿」や「ねらい」「内容」を書く必要がある。

今回取り上げた「絵本」は、在園期間を通して毎日子どもが親しむものである。しかし、モデルカリキュラムにおいて「子どもの姿」の項目に絵本に関する記述は殆どみられなかった。これではカリキュラムが現実の保育実践と乖離していると言わざるを得ない。また、多くの園で毎日行われている絵本読みも、カリキュラム上では行われていないことになっていた。行っていたとしても、「ねらい」もなくただ時間を埋めるために行われていることになってしまう。

しかし、多くの保育者は子どもに絵本を通して何かを感じ取ってほしい、学びとってほしいと思いながら絵本を読んでいるのではないだろうか。保育者は絵本読みに多くの「ねらい」を持って保育を実践しているのである。

幼稚園や保育園で見られる子どもの姿を具体的にカリキュラムに反映させ、保育実践の一つひとつが丁寧に取り上げられるモデルカリキュラムの作成が求められる。

以上4点を今後の課題として提言する。よりよいモデルカリキュラムの作成は、保育現場で作成されるカリキュラムの充実、更には計画的かつ適切な保育実践に繋がると考える。

#### 【参考文献】

- 『月刊 保育とカリキュラム』編集委員（編）（2011）. 幼稚園教育要領と保育所保育指針に配慮した指導計画の基本的な考え方&年齢別年の計画 ひかりのくに
- 金丸智美（2010）. 保育現場における幼稚園教育要領・保育所保育指針 福岡教育大学大学院修士論文抄録, 26, 25-32.
- 厚生労働省（編）（2008）. 保育所保育指針解説書 フレーベル館
- 文部科学省（2008）. 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 文部省（1991）. 幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開 フレーベル館
- 無藤 隆・柴崎正行（編）（2009）. 別冊発達 29 新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて ミネルヴァ書房
- 尾花雄路（2007）. 保育所（園）における指導計画の現状と課題—福岡県 A 市の調査をもとに— 九州教育学会研究紀要, 35, 173-180.
- 奥山順子・山名裕子（2006）. 幼稚園教育における計画の位置づけ—保育者の意識調査にみる保育の計画性と保育者の専門性— 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学部門, 61, 83-90.
- Pot ポット 4月号別冊付録 0~5歳児年齢別・幼保別保育カリキュラム 年間計画、4・5・6月の月案のヒント チャイルド本社（2011）
- PriPri プリプリ別冊付録 指導計画のヒント 世界文化社（2011）
- ピコロ・カリキュラム研究会（2011）. 2011年ピコロ4月号別冊付録① ピコロ・カリキュラム 学研
- 社会福祉法人全国社会福祉協議会（2011）. 保育の友 第59巻 第4号.
- 田中敏明・尾花雄路・杉村智子（1996）. 幼稚園指導計画の分析的研究（Ⅰ）—国立大学附属幼稚園年間計画の内容分析— 日本保育学会大会研究論文集, 49, 332-333.
- 田中敏明・尾花雄路・杉村智子・荒木陽子（1997）. 幼稚園指導計画の分析的研究（Ⅱ）—国立大学附属幼稚園年間計画の「発達の姿」分析— 日本保育学会大会論文集, 50, 178-179.
- 田中敏明・金丸智美（2009）. 保育雑誌に掲載される年間指導計画モデルの問題点 九州の保育第2号, 19-42.